



# 酒造好適米「吟のいろは」通信

令和4年12月発行

宮城県美里農業改良普及センター



## 12月の「吟のいろは」

松山町酒米研究会の生産者が栽培している「吟のいろは」は、9月下旬～10月中旬にかけて刈取が行われました。7月中旬の大雨の影響もあり、収量は約531kg/10a（出荷量ベース）と前年と比較して1割ほど少なくなりました。

一方で生産者の皆さんの適切な管理により、玄米千粒重は約28.5gとここ数年で最も粒が大きくなりました。等級検査も12月上旬までに終了し、全量が1等、2等に格付けされました。

今月10日には今年の作柄を振り返る検討会が盛大に開催され、その中で今年度は天候の影響もあり収量がやや少なかったものの、品質については「吟のいろは」はもちろん、他の酒米の品質もとても良い仕上がりとなったこと等を確認しました。

関係機関からは、徐々に酒米の需要も回復傾向にあるなど明るい話題も聞かれ、今後多くのお店で「吟のいろは」で醸したお酒を見かけることを期待しています！



## 今後の見込み

年明けには今年度3回目の栽培研修会を開催する予定となっており、お米の外観品質や酒米としての適性を見る成分分析など、様々な角度からの分析結果を共有し、来年度のさらなるレベルアップを目指すこととしています。